

# ダンス指導実践に関わる現職教員の意識

—小学校を対象として—

畑野裕子 (兵庫教育大学)  
茅野理子 (宇都宮大学)  
三浦弓杖 (千葉大学)  
松本富子 (群馬大学)

(日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門  
舞踊研究会プロジェクト)

## 【目的】

本研究では、大学時代の履修経験が、ダンスに対する価値観や指導に対する意欲等に及ぼす影響について明らかにし、それを通して教員養成大学におけるダンス教育改善の指針を得ようとした。

## 【方法】

調査期間：1991年8月～92年1月。対象：小学校教員(全国から無作為抽出)。方法：郵送法。一部集合調査による。項目：5つから構成(結果と考察参照)。分析：資料は、奈良教育大学の大型計算機を用いてSPSSXによって解析された。

## 【結果と考察】

### 1. 対象者の属性

総調査人数は2,780名(有効回答者2,776名)、男性1,441名(51.8%)、女性1,331名(47.9%)であった。年齢は20・30代で8割以上を占め、他教科専門の方が多い(61.4%)。

### 2. ダンス全般

踊る、創る、観るについて、5割弱、2割弱、4割が好きと答えている。ダンス経験は総体的に少ない。自分が踊れる・指導している・自信を持ち指導している・生徒にさせたいダンスの種類は、どの項目もフォークダンスと表現運動に集中している。96%が表現運動は児童にとって大切と答えている。その理由は、分散傾向を示し、「感情を豊かにする」「リズムによって体力づくり」「表現・伝達の喜びを体験」「想像性・創造性豊かな人間を育てる」が上位に選択された。だが24%が体育の中で重視していないと答え、意識の違いが見られる。その理由は、無回答が最も多いが、続いて「自分に体験がない」(12%)が多いのは、教員養成上の問題点と言えよう。

### 3. 大学時の履修経験およびそれに対する考え

大学の授業で表現運動・ダンスの履修経験は、1年以上が24.9%、1年未満が40.7%、全くないが33.2%であった。その授業内容は「本人の実技能力を高める」「児童の題材を体験」が、また実技内容は「リズムによって動く」「即興」が上位で

あった。履修により興味・価値観等に変化があったのは、39.3%である。履修後の印象は、「創作する難しさ」「からだを精一杯動かせた爽快感」「作品を創りあげた満足感・達成感」があげられた(分散傾向、いずれも8%台)。履修経験者の68%が履修経験は指導に役立つと答え、具体的には、「本人の実技能力」「題材」「リズム」「動きを見つける」「イメージを広げる」をあげている。

### 4. 指導の実態

昨年1年間に参加した講習会は、体操、スポーツ、ダンスの3領域とも「無」が5割から7割弱と最も多く、ダンス講習会の開催の多さについては、わからない・少ないに8割弱が回答している。ここ1年間の表現運動の授業実践の有無は、54.1%と44.1%である。指導については、好き・段々好きになるが1,064名で、段々嫌いになる・嫌いの438名を上回った。好きな理由は、「子供の生き生きした表現に触れ素晴らしさを味わえる」が604名で最も高い。しかし自信を持って行える内容になると、「本人の実技能力を高める」「題材選択」「リズムによって動く」が1割を越えるだけで、一般的に数値が低い。今後身につけたいことは5割近くがあると回答し、「本人の実技能力」「助言」「題材選択」「イメージ」「ステップ等の基本的な動き」が選択された(数値はいずれも高くない)。指導に取り組むときに一番障害になることに「生徒が動かない」「助言の仕方がわからない」「自分で動いてみせられない」「よい指導資料がない」があげられ、この結果は他種類のダンス指導においてもほぼ同様であった(ただし数値は7%台と低い)。自分で授業計画を組めるのは31.7%(組めない24.5%)で、その時の参考は、「優れた公開授業・実践報告資料」「講習会での経験」である。また身近にあったら1番役に立つものは「学習指導のビデオ・フィルム」が最も多い。児童が表現に興味を持って取り組んだと4割弱が答えている。

### 5. 効果をあげた指導

「教師と一緒に動く」「ことばかけ」「動きの広がりを与える」「アドバイス」「教師の表情、態度」「教師が自ら体を動かす」など教師の関わり方を指摘するものが多く選択された。36.0%が、他の運動種目と比べ、表現運動は児童に影響を及ぼしたと答え、否定の17.7%を上回った。

## 【結論】

実態は、表現運動の価値を十分認識しながら、体験不足などから指導が行えない状態にあると言える。また大学時の履修経験は、ダンス教育観等の意識変化に影響を及ぼしはするが、具体的で有効な指導法を伝えているとはいいい難い。つまり、1.教員養成大学におけるダンスカリキュラムの改善として、①全員履修の方向へ ②内容の再検討

一指導法・指導技術向上の方向へ 2.再教育の機会  
の提供として、①講習会の開催 ②授業実践の  
ための資料提供 が課題として提示された。

\*調査協力の関係各位に厚く御礼申し上げます。